

2025 年 1 月 24 日

The Emerging Markets Weekly

トランプ大統領就任初日の関税発動の回避が支援材料に

新興国市場:先週末 17 日のアジア時間は大半が小幅な値動き。発表された中国 10~12 月期実質 GDP 成長率が市場予想を上回ったことが支えとなった。欧米時間、中国の習国家主席とトランプ次期米大統領の電話会談が好感され米株が上昇、リスクオンムードが広がるも新興国通貨はまちまち。RUB が前日比+1.2%、ZAR も上昇した。一方、BRL は軟調。週初 21 日のアジア時間は、ドルの上昇が一服したことから総じて値を伸ばした。KRW が前日比+1.2% 上昇、SGD や CNY も買われた。欧米時間、トランプ大統領就任式前に大手新聞紙による報道を背景にインフレ懸念が後退し、ドルが急落した。RUB、MXN や ZAR が前日比+1.0% 超値を伸ばした。21 日はボラタイルな動き。トランプ大統領が追加関税を見送ったことが支援材料に。しかし、トランプ氏がカナダとメキシコに対する 25% 関税賦課について 2 月 1 日に実施を計画していると表明するとドルが上昇するもその影響は一時的にとどまり再び上昇した。RUB や THB、MYR が堅調。他方、MXN は売られた。22 日アジア時間は前日のトランプ氏の対中関税関連の発言が重しとなりまちまち。MYR はマレーシア中央銀行 (BNM) の金融政策会合を控え上昇。THB も堅調となった。欧米時間は底堅く推移した。BRL は前日比+1.4% 値を伸ばし、前日下落していた MXN も反発した。23 日のアジア時間は大半が軟調。THB や PHP が値を下げた。欧米時間、トランプ大統領の原油価格を巡る発言を受けてドルが軟化し、中南米通貨は概ね上昇した。MXN と BRL が買われたが、RUB は下落した。

アジア:17 日公表のマレーシア 10~12 月期実質 GDP 成長率は前年比+4.8% と 7~9 月期から減速し、市場予想を下回った。2024 年の年間成長率は前年比+5.1% となった。同日発表の中国 10~12 月期実質 GDP 成長率は前年比+5.4% と 7~9 月期から加速し、市場予想を上振れた。2024 年の年間成長率は前年比+5.0% と「+5.0% 前後」の政府目標を達成した。中国人民銀行 (PBoC) は 20 日、ローンプライムレート (1 年物 3.10%、5 年物 3.60%) をそれぞれ据え置いた。22 日公表のマレーシア 12 月消費者物価指数 (CPI) は前日比+1.7% と前月から減速、市場予想を下振れた。同日、BNM は政策金利を 3.00% に据え置くことを決定。据え置きは 10 会合連続。BNM は現行の金利水準は引き続き景気を下支えし、現行の物価と経済の評価と総合的であると述べた。23 日発表の韓国 10~12 月期実質 GDP 成長率は前年比+1.2% と 7~9 月期から鈍化し、市場予想 (同+1.4%) を下回った。同日公表のシンガポール 12 月 CPI は前年比+1.6% と前月から横ばい、市場予想を上振れた。

中東欧・アフリカ:22 日発表の南アフリカ 12 月 CPI は前日比+3.0% と前月から加速するも市場予想を下回った。トルコ中央銀行 (TCMB) は 23 日政策金利を 250bp 引き下げ 45.00% にすることを決定。利下げは 2024 年 12 月会合から 2 会合連続。TCMB は引き締めのスタンスはインフレの持続的な減速により物価安定が達成されるまで維持されると述べた。

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(中国)

2024 年の景気動向の総括とトランプ大統領就任を受けた人民元相場の反応

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

2024 年も年間目標の成長率+5.0%を達成したが…

今月公表された 24 年 10~12 月期実質 GDP 成長率は前年同期比+5.4%と市場予想の同+5.0%を上回るとともに、7~9 月期の+4.6%からも加速した(図表 1)。業種別でみると、第 1 次、第 2 次、第 3 次産業全てで 7~9 月期を上回る結果となり、懸案の不動産業についても 7 四半期ぶりにプラスを回復した(図表 2)。この結果については 9 月以降に実施された景気支援策の影響との指摘もあり、一過性でないかといった点は引き続き注視していく必要がある。これによって、24 年年間の実質 GDP 成長率は前年比+5.0%となり、政府が掲げた「+5.0%程度の成長」を達成したかたちとなった。もともと、上述の状況を受けて、中国経済の先行き懸念が払拭されたと判断するのは尚早だろう。実質 GDP 成長率の内訳をみると、上半期から内需の寄与度が縮小しており、外需に支えられた印象が強い。特に 12 月の貿易黒字に目を向けると、+1048 億ドルと単月では過去最高を記録した。輸出は前年比+10.7%となっており、地域別に見ると、米国向けの輸出は同+15.6%と大きく加速した(図表 3)。これは本欄で指摘した通り、トランプ氏勝利を見越して輸出を前倒した可能性が高い。なお、24 年年間の貿易黒字も+9920 億ドルと過去最高を記録した。一方で、トランプ氏がこうした状況を看過するとは思えない。24 年は中国の対米貿易への依存度は増加傾向にあったものの、25 年は減速することは濃厚だ(図表 4)。トランプ大統領も 20 日の就任会見の段階では中国に対する関税強化を見送ったものの、今後の交渉が中国の先行きの輸出を大きく左右することはまず間違いない。

デフレーションは定着し、内需の弱さが露見

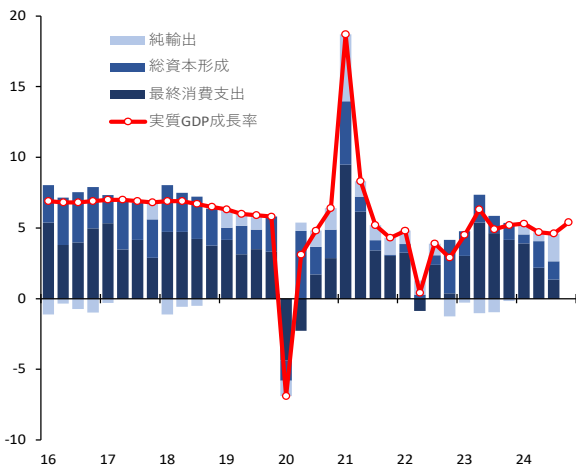
物価動向に関して、12 月消費者物価指数(CPI)は前年比+0.1%とゼロ近辺での動きが継続、生産者物価指数(PPI)についても引き続きマイナス圏で推移した(図表 5)。また、年間の CPI 上昇率は同+0.2%と年間を通じてデフレーションが定着する結果となった。「消費者心理の悪化や不動産価格の低下の伴う逆資産効果→個人消費の減速→インフレの下方硬直」といった負のスパイラルから脱却出来なかったことを背景に、インフレの鈍化によって 24 年年間名目 GDP 成長率は前年比+4.2%に留まっており、実質 GDP 成長率の同+5.0%から大きく離れた。先述の通り輸出の不透明感が強まる中で、24 年同様の成長の維持するためには内需のてこ入れが大きな課題となりそうだ。

1 月の CNY 相場について

年初からドルに押される展開が続いていたがトランプ氏の大統領就任会見での関税強化見送りから CNY 相場はまとまった幅で値を戻している(図表 6)。過去の本欄でも指摘した通り、今後もトランプ次期政権に関するヘッドラインで相場がリスクオフに傾いて CNY が手放されるという局面が出てくる点は最早避けがたい。本欄では CNY 相場を見る上で両国の金利差に対して都度言及してきたが、金利面でもドルが優勢になると推測している。まず、米国側は 12 月 FOMC で▲25bps の利下げを決定。利下げはほぼ既定路線であったが、25 年の利下げ回数縮小が示唆されるなど、内容はタカ派であった。パウエル FRB 議長は利下げ路線継続を示唆したが、景気下振

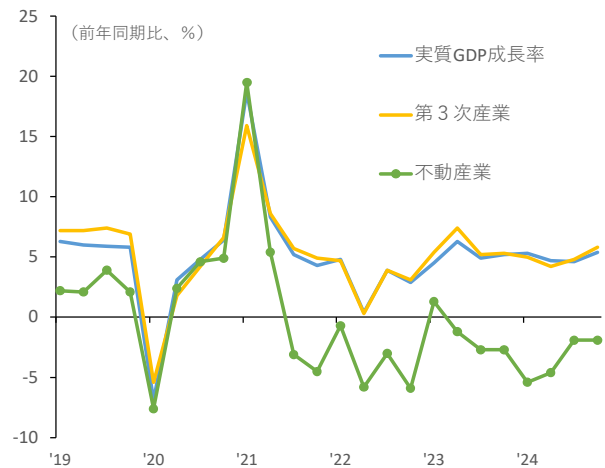
れリスクが弱まっている点にも言及。こうした中でインフレ率が2%近辺での動きが続けば中立金利が現在の想定よりも高止まりする可能性はある。一方で、中国側は25年の経済政策について、積極的な財政政策と緩和的な金融政策を実施していく方針を示している。これに伴い、中国人民銀行による追加利下げの期待感は相応にあるものの、銀行の貸出は伸び悩んでおり、金融緩和で潤沢になった資金は借り手がみつからない状況に映る。この結果、銀行は投資先として国債を購入せざるを得ず、国債利回りは短期・長期とも下落ペースが強まっている(図表7、8)。こうした点を踏まえると米国が利下げを継続したとしても両国の金利差は想像よりも縮小しない可能性はある。個々のヘッドラインで短期的な為替相場の変動を逐一予想するのは困難と言わざるを得ないが、為替相場の基本的な変動要因に対するアプローチを継続の上、分析を進めていきたい。

図表 1: 実質 GDP 成長率の推移



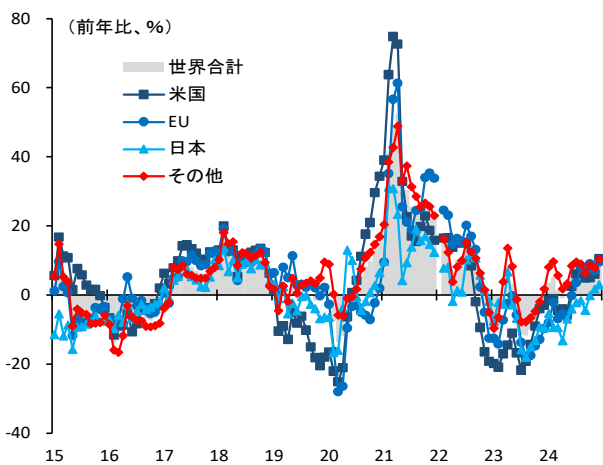
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移(業種別)



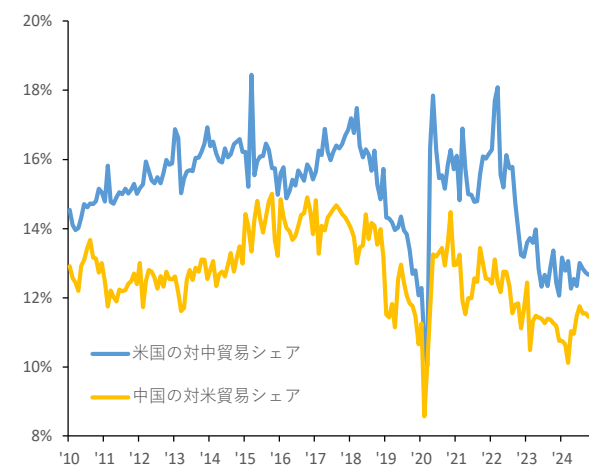
出所: Macrobond、みずほ銀行 ※後方3か月移動平均

図表 3: 国・地域別の輸出実績



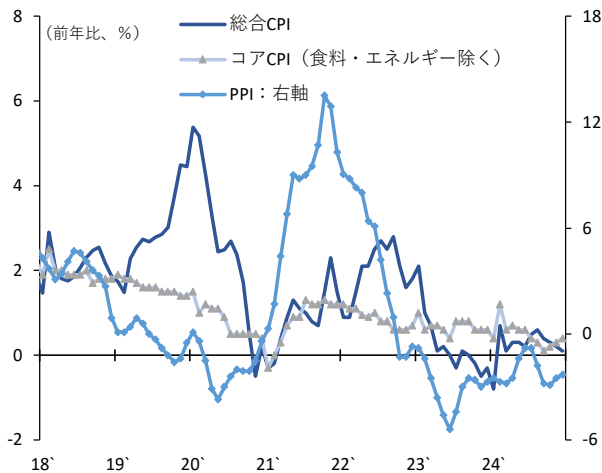
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行 注: 後方3か月移動平均

図表 4: 米中両国間の貿易シェア(輸出と輸入の合計)



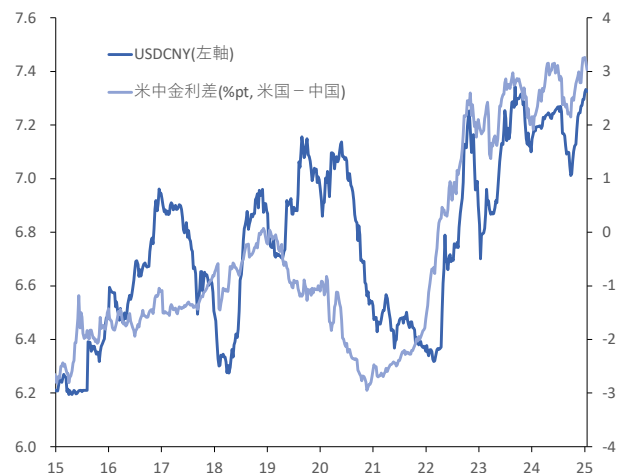
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: 消費者物価指数と生産者物価指数



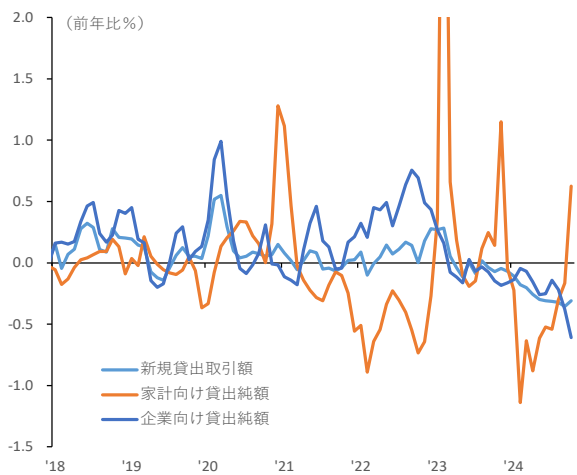
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 6: CNY相場と対米金利差(2年金利)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 7: 銀行の貸出状況



出所: Macrobond、みずほ銀行 注: 図表作成上、一部をカットした

図表 8: 中国国債利回り



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(メキシコ)

米新政権の関税報道に右往左往する MXN

金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

1 月 20 日、トランプ氏が米新大統領に正式に就任した。関税などに関し就任初日から何かしらのアクションがあるのではないかといった思惑もあったものの、同日の新興国通貨は上昇して引けた。その背景としては、中国を標的にした関税発表を見送るとの観測報道が挙げられよう。実際、就任演説では、関税賦課に関し具体的なコメントは見られなかった。どちらかと言えば、移民政策や環境政策に関する言及が多かったように記憶している。

しかしながら、日本時間 21 日の 10 時台には、状況が一変した。大統領令署名に向け自身の執務室に戻って以降も、トランプ氏の発言が断続的に報道されたことが要因である。最も注目を浴びたのは、言うまでもなく、「カナダとメキシコに、2 月 1 日までに 25%の関税を計画している」という発言だろう。これを受け、CAD や MXN は売りに晒された。ただし、CAD に比べれば、MXN の売りは勢いに欠けた。カナダは政治的に不安定な状況が続いており、これが CAD の重しになったのだろう。

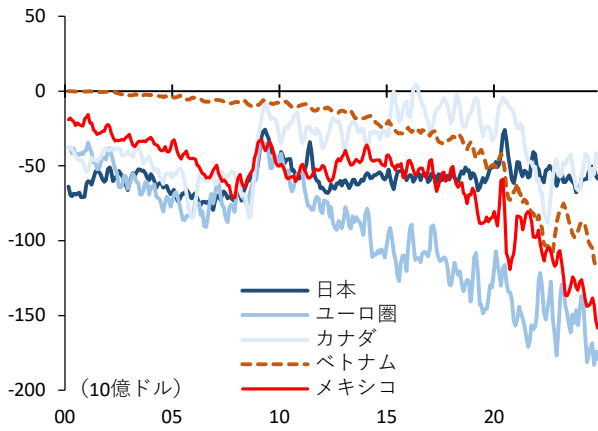
いずれにしても、両国への関税賦課方針は過去にも言及があり、「25%」という関税率も既出だ。ただし、これはあくまで「ジャブ」である可能性が高いと筆者は考えており、今後は個別の交渉に移る、というのが現実的だろう。両国に 25%の関税を本当に賦課した場合、米製造業もかなりの返り血を浴びることは明白である。トランプ大統領は就任演説で「再び製造業国家になる」としたが、それは米国一国で成立させることはできない。

メキシコ側も、既に対米交渉のカードを準備しているように思える。シェインバウム墨大統領とトランプ米大統領の電話会談は 2024 年末に既にも実施済みであり、マーケットがこれを好意的に解釈したことも記憶に新しい。そして、シェインバウム墨大統領は 1 月 13 日、「プランメキシコ」と題した計画を公表している。主な内容は、「現地調達率の向上」「自動車の国産化率引き上げ」「メキシコへの企業移転の奨励」である。そのうえで、「中国からの輸入を削減したい」「USMCA は、中国と競争するための最善策である」と、明らかに米新政権を意識したコメントを残した。実際、米貿易収支や中国輸出動向などを確認すれば、メキシコやベトナムは中国製品の迂回輸出が疑われる(図表 1、2)。メキシコに一定の譲歩が必要にはなると思われるが、本欄では、米国とメキシコが本格的に通商戦争状態に陥る可能性は高くないと考えている。何度も述べたが、カナダやメキシコに関しては、安全保障上の仮想敵国である中国とは大きく状況が異なる。これらの国々を同列に語ることはできない。

もともと、貿易紛争が回避されたと仮定しても、MXN にとってはネガティブな環境は変わらない。ニアショアリングの影響が近年のメキシコ経済および MXN を押し上げたことは事実ではあるが、足許で特に米国からの直接投資フローが減退しているのはやはり気がかりである(図表 3)。製造業部門の景況感悪化も進行しており、特に「投資不足」が懸念される状況にある(図表 4)。既に一部の米企業がメキシコへの投資方針を見直している事実も、看過できない。かかる環境下、投資環境の悪化が見込まれており既にその影響が出ている以上、MXN の買い戻しの可能性はあれど、大幅な MXN 高は見通しにくいと想定している。米墨の通商交渉次第では、年内に 20.0 を割り込む可能性も否定はされない。ただし、2024 年半ばまでのように、19.0 以

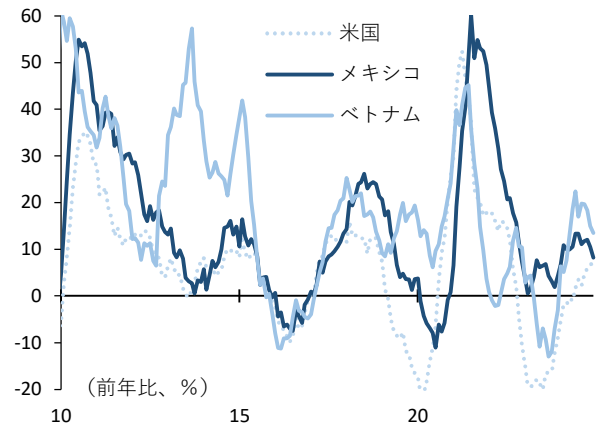
下まで値を戻すのは非常に難しいのが現状だろう。

図表 1: 米貿易収支(3か月移動平均)



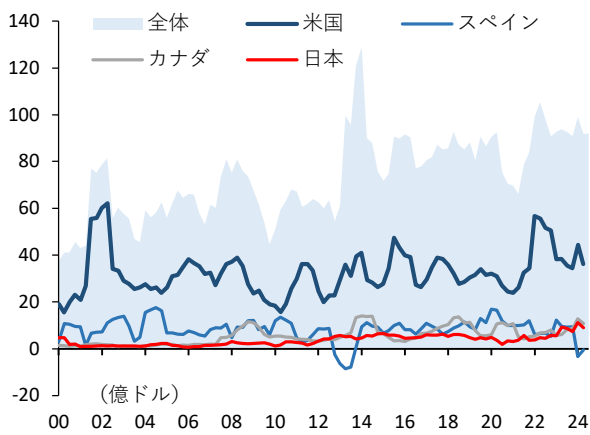
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 中国の輸出動向(6か月移動平均)



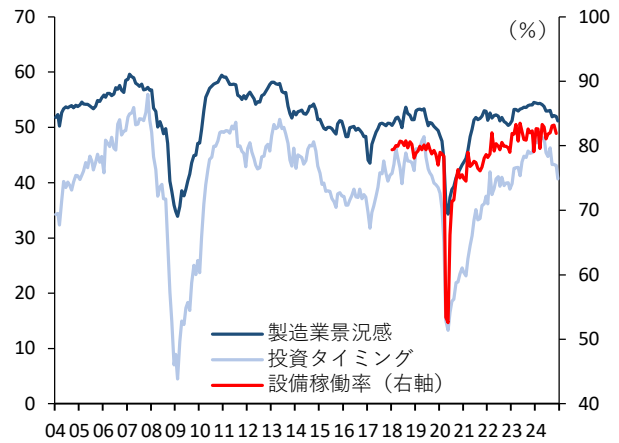
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: メキシコの対内直接投資フロー(4 四半期移動平均)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: メキシコの製造業景況感と設備稼働率



出所: Macrobond、みずほ銀行

市場概観(マレーシア)

1 月金融政策会合～現状維持、景気・インフレは安定的に推移

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

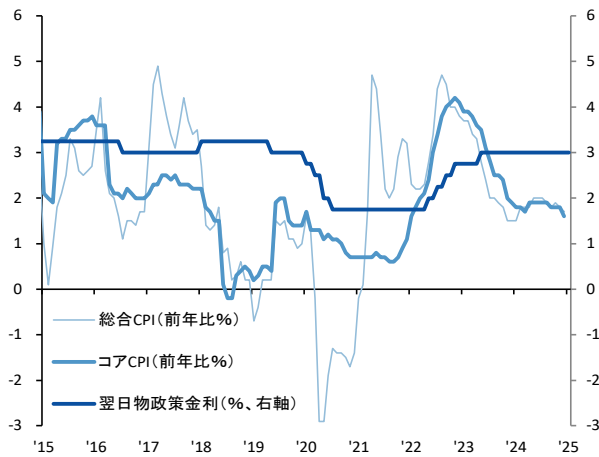
マレーシア中銀(BNM)は 22 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 3.00%に据え置いた。政策金利の現状維持は 23 年 7 月以降、10 会合連続での決定となった(図表 1)。ブルームバークの事前予想では現状維持が優勢だった。

声明文では世界経済について想定よりも成長が進んだとした一方、先行きに関しては政治・経済動向など不確実性が多く存在する点に言及した。マレーシア経済については想定通りの成長が継続していると総括。10～12 月期実質 GDP 成長率(速報)は前年同期比+4.8%と前四半期の同+5.3%から鈍化したものの、サービス部門や製造業部門を中心に堅調さを保った(図表 2)。速報ベースではあるものの、年間での成長率は前年比+5.1%と 23 年の同+3.6%から加速することはほぼ確実である。BNM は 25 年についても、堅調な個人消費、労働市場の回復、民間・政府における投資の活性化、電子製品輸出の持ち直し、観光業の本格化など複数の景気押し上げ要因に触れつつ、前年比+4.5～5.5%の間で底堅く推移するとの見方を示した。

物価動向に関して、12 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.7%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースは同+1.6%を記録した(図表 3)。年初以降、総合・コアベースとも+2%近辺での動きが続き、年間で見ても、総合・コアベース共に同+1.8%の上昇となった。BNM は先行きのインフレに関して、制御可能であるとの見方を変えておらず、25 年についても現行の水準を安定的に推移すると見込んでいる。

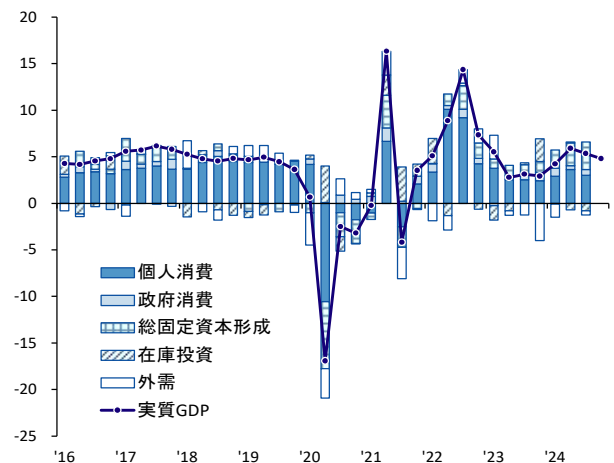
かかる中、BNM は現行の金利水準は引き続き景気を下支えし、現行の物価と経済の評価と整合的であるとして、政策金利を維持した。声明文や会見の内容を踏まえても、少なくとも今後数回の会合は現状維持を中心に検討されていくものと推測される。また、BNM は現行の MYR 相場について、引き続き主に外部要因に左右されているとし、先進国との金利差縮小は MYR にとってプラスと指摘した。米国との金利差に着目すると、9 月に米国の利下げ期待が強まった段階で一時両国の金利差は逆転したが、足許にかけては米金利の騰勢が強まったことで対米金利差は拡大傾向にあり、直近数か月の MYR 動向はこうした金利差変動に付随するような動きとなっている(図表 4)。また、その金利差の動きはほとんどが米国側の要因であり、BNM が利下げを急がない理由として不確実性の強い米国の政治・金融政策動向も意識したと考えられる。現状、米国の利下げは 2 回と予想されており、少なくとも上半期に 1 度以上は利下げに着手すると考えられる。その前提に従えば、両国の金利差拡大は今後頭打ちとなりそうだが、BNM が金融政策を転換しない限りは大きく縮小することもないと予想する。故に、金利の観点では現行の水準から大きく為替が動くとは考えにくい。トランプ大統領の就任会見前後では MYR 相場も動意づいており、対中関税強化をはじめとする個別のヘッドラインが短期的にリスクオフ傾斜の材料となって MYR を含めた ASEAN 通貨にも影響が及ぶといった展開は大いに想定される。もっとも、マレーシア経済は周辺国と比較して堅調であり、仮に市場がリスクオフに傾いたとしても変動幅は小幅に留まると思われる。以上を踏まえて、現段階では 25 年 1～3 月期の想定レンジを 4.29～4.65 としている。

図表 1: 政策金利とインフレ率



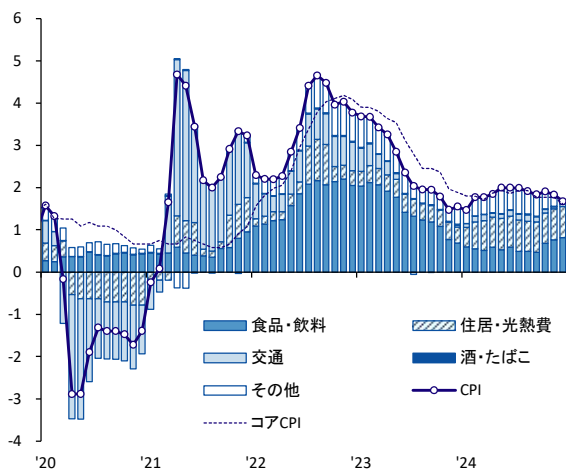
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行 注: 24年10~12月期は成長率のみ

図表 3: 消費者物価指数の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

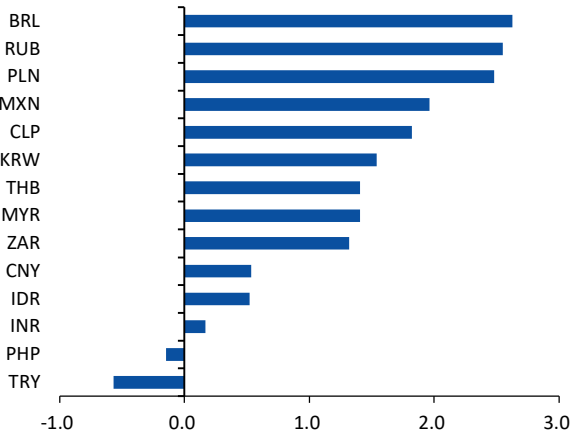
図表 4: 対米金利差 (米国-マレーシア) と MYR 相場の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

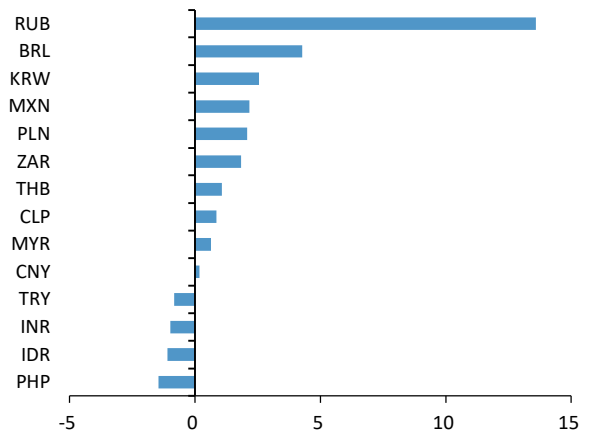
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



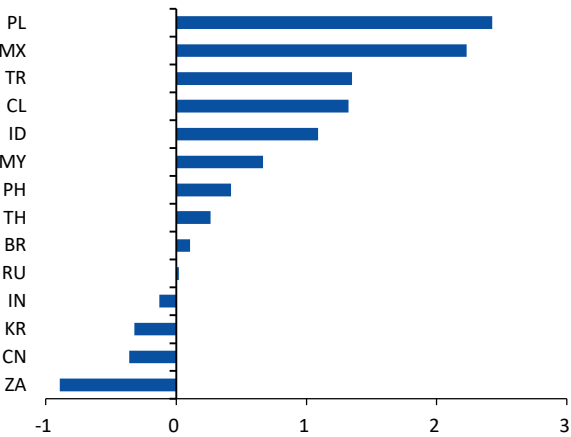
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



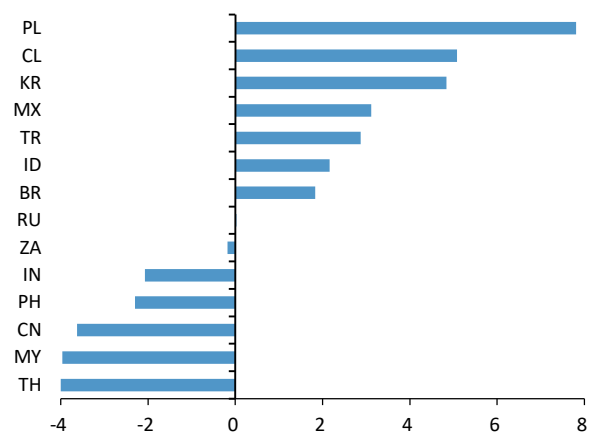
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



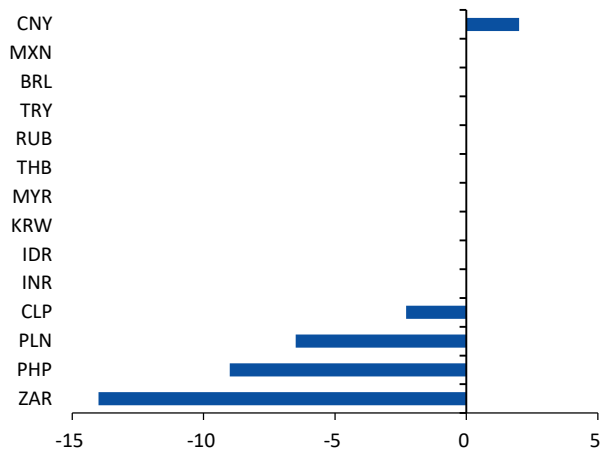
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

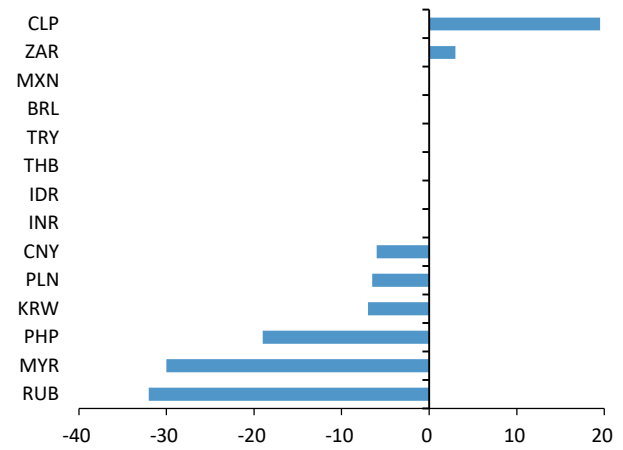
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

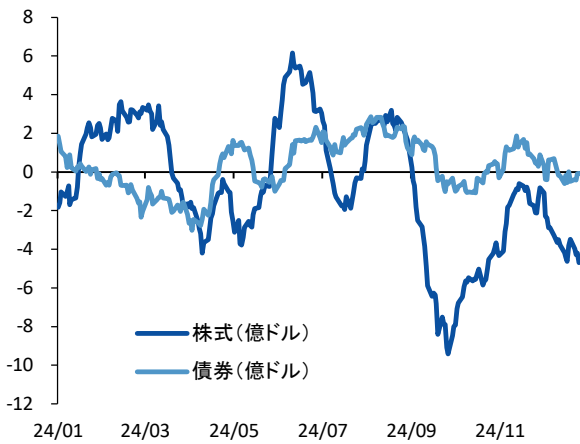


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

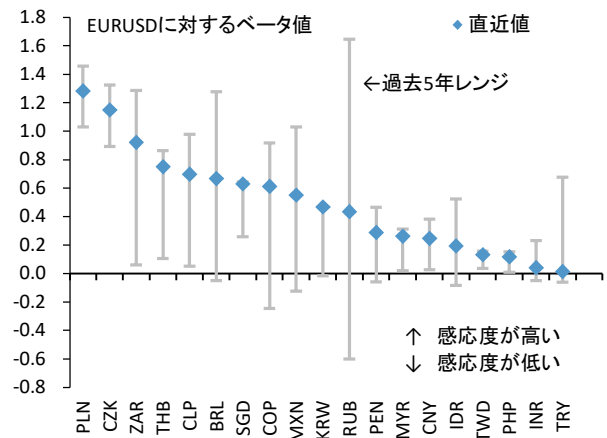
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



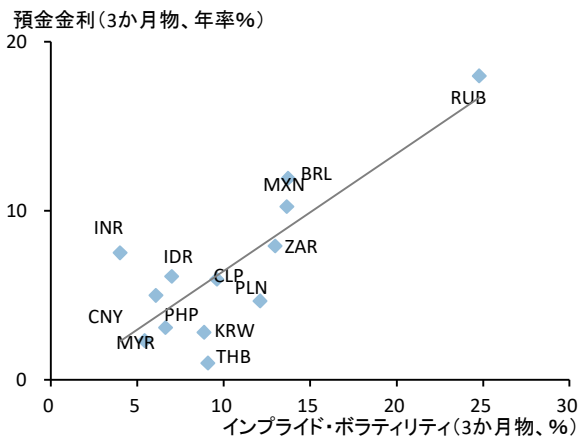
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



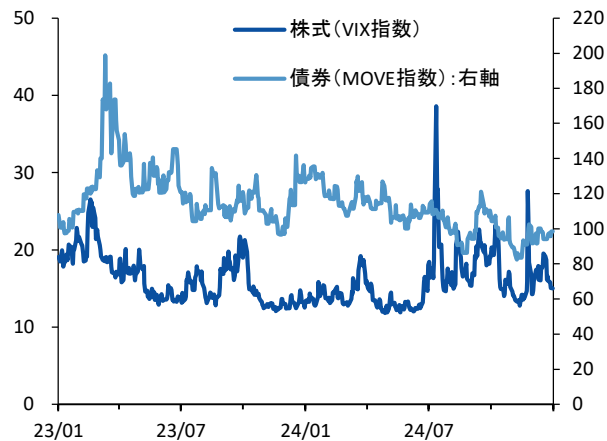
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



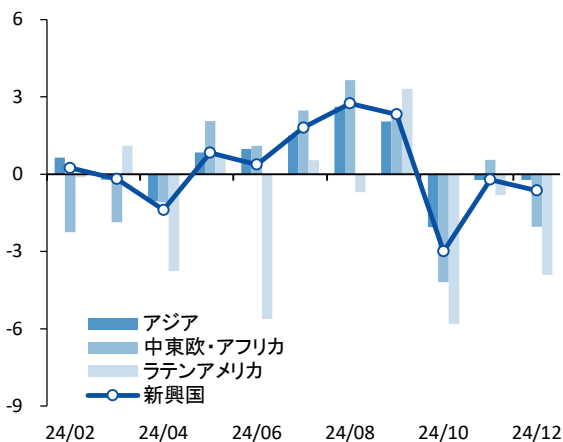
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



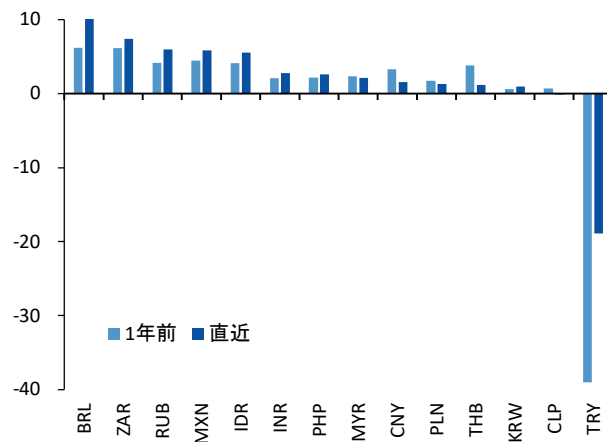
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
1月20日 (月)	中国	1年貸出プライムレート	3.10%	3.10%	3.10%	--
20日 (月)	マレーシア	輸出(前年比)	8.8%	16.9%	4.1%	--
20日 (月)	フィリピン	総合国際収支	--	-\$1508m	-\$2276m	--
21日 (火)	韓国	PPI 前年比	--	1.7%	1.4%	--
22日 (水)	韓国	消費者信頼感	--	91.2	88.4	88.2
22日 (水)	マレーシア	CPI(前年比)	1.8%	1.7%	1.8%	--
22日 (水)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
23日 (木)	韓国	GDP(前年比)	1.4%	1.2%	1.5%	--
23日 (木)	シンガポール	CPI(前年比)	1.5%	1.6%	1.6%	--
23日 (木)	台湾	鉱工業生産(前年比)	13.5%	20.0%	10.3%	10.2
24日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$4685m	--	-\$4767m	--
24日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	6.0%	--	8.5%	--
24日 (金)	台湾	GDP(前年比)	2.0%	--	4.2%	--
27日 (月)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	-7.3%	--
27日 (月)	中国	製造業PMI	--	--	50.1	--
27日 (月)	中国	非製造業PMI	--	--	52.2	--
27-31日	韓国	百貨店売上高(前年比)	--	--	0.0	--
27-31日	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	-\$224m	--
30日 (木)	フィリピン	GDP(前年比)	6.1%	--	5.2%	--
31日 (金)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	50.5	--
31日 (金)	タイ	貿易収支	--	--	\$2023m	--
31日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	\$2000m	\$2034m
中東欧・アフリカ						
1月21日 (火)	ロシア	経常収支	--	4800m	7758m	--
22日 (水)	南ア	CPI(前年比)	3.2%	3.0%	2.9%	--
22日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	5.8%	7.7%	6.3%	--
23日 (木)	トルコ	1週間レポレート	45.00%	45.00%	47.50%	--
27日 (月)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	--	99.1	--
27日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	--	75.8%	--
30日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	--	3.9%	--
30日 (木)	南ア	PPI 前年比	--	--	-0.1%	--
30日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	--	--	7.75%	--
31日 (金)	トルコ	貿易収支	--	--	-7.46b	--
31日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	8.3%	--
31日 (金)	南ア	貿易収支(ラント)	--	--	34.7b	--
ラテンアメリカ						
1月21日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	-1.4%	-1.9%	-1.2%	--
24日 (金)	ブラジル	経常収支	-\$12900m	--	-\$3060m	--
24日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	4.3%	--	4.7%	--
24日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	0.7%	--	0.7%	--
27日 (月)	ブラジル	融資残高	--	--	6315b	--
27日 (月)	メキシコ	貿易収支	--	--	-133.0m	--
30日 (木)	ブラジル	SELICレート	--	--	12.25%	--
30日 (木)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	--	--	6.5%	--
30日 (木)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	1.6%	--
31日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	61.2%	--

注:2025年1月24日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2024年 1～12月(実績)	SPOT	2025年 3月	6月	9月	12月	2026年 3月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	7.0048 ~ 7.2998	7.2862	7.32	7.38	7.23	7.12	7.12
香港ドル (HKD)	7.7592 ~ 7.8387	7.7898	7.76	7.76	7.75	7.76	7.76
インドルピー (INR)	82.649 ~ 85.813	86.468	85.8	86.0	84.8	84.3	84.3
インドネシアルピア (IDR)	15060 ~ 16481	16284	16250	16300	15650	15200	15230
韓国ウォン (KRW)	1290.39 ~ 1487.03	1435.04	1470	1470	1450	1420	1400
マレーシアリング (MYR)	4.0947 ~ 4.8053	4.4443	4.53	4.53	4.30	4.12	4.14
フィリピンペソ (PHP)	55.300 ~ 59.041	58.697	59.5	59.6	57.2	56.5	56.3
シンガポールドル (SGD)	1.2789 ~ 1.3680	1.3550	1.36	1.37	1.34	1.32	1.32
台湾ドル (TWD)	30.518 ~ 32.922	32.774	33.0	32.7	32.5	32.3	32.3
タイバーツ (THB)	32.14 ~ 37.25	33.99	34.8	35.2	34.3	33.6	33.5
ベトナムドン (VND)	24260 ~ 25512	25108	25850	25750	25100	24700	24680
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	82.6604 ~ 115.2001	99.9102	106.0	108.0	110.0	112.0	114.0
南アフリカランド (ZAR)	17.0356 ~ 19.3899	18.4996	18.2	18.0	17.8	17.6	17.4
トルコリラ (TRY)	29.6646 ~ 35.5975	35.6666	34.5	34.0	33.5	33.0	32.5
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	4.8317 ~ 6.3156	5.9237	6.30	6.10	6.00	5.90	6.00
メキシコペソ (MXN)	16.2616 ~ 20.9072	20.3812	20.7	21.0	20.7	20.5	20.3
対円							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	19.666 ~ 22.256	21.410	21.04	21.14	21.72	22.47	22.75
香港ドル (HKD)	17.905 ~ 20.733	20.033	19.85	20.10	20.26	20.62	20.88
インドルピー (INR)	1.664 ~ 1.939	1.805	1.79	1.81	1.85	1.90	1.92
インドネシアルピア (100IDR)	0.876 ~ 0.999	0.958	0.948	0.957	1.003	1.053	1.064
韓国ウォン (100KRW)	10.314 ~ 11.735	10.869	10.48	10.61	10.83	11.27	11.57
マレーシアリング (MYR)	30.593 ~ 35.497	35.188	34.00	34.44	36.51	38.83	39.13
フィリピンペソ (PHP)	2.451 ~ 2.776	2.668	2.59	2.62	2.74	2.83	2.88
シンガポールドル (SGD)	106.65 ~ 120.03	115.17	112.99	113.79	117.60	121.40	122.91
台湾ドル (TWD)	4.335 ~ 4.976	4.756	4.67	4.77	4.83	4.95	5.02
タイバーツ (THB)	4.018 ~ 4.657	4.591	4.43	4.43	4.58	4.76	4.84
ベトナムドン (100VND)	0.5646 ~ 0.6365	0.6210	0.60	0.61	0.63	0.65	0.66
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.323 ~ 1.907	1.562	1.45	1.44	1.43	1.43	1.42
南アフリカランド (ZAR)	7.588 ~ 8.973	8.436	8.46	8.67	8.82	9.09	9.31
トルコリラ (TRY)	4.071 ~ 4.978	4.364	4.46	4.59	4.69	4.85	4.98
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	24.398 ~ 31.200	26.347	24.44	25.57	26.17	27.12	27.00
メキシコペソ (MXN)	6.991 ~ 9.455	7.657	7.44	7.43	7.58	7.80	7.98

注:1. 実績の欄は2024年12月31日まで。SPOTは1月24日の7時10分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。